

令和6年度 校内研修全体計画

佐世保市立大塔小学校 研究部

1 研究主題について

自分の思いをもって 表現できる子どもの育成
～ICTを活用した主体的・協働的な学びの創造を通して～

2 研究の全体構想図について

自分の思いをもって 表現できる子

学びに向かう力・人間性等の涵養

知識・技能の習得

思考力・判断力・表現力等の育成

児童一人一人の
「深い学び」の実現

授業研究の
推進

ICTスキル
向上

学習環境
整備

- 児童が食らいつくような「めあて」と「まとめ」の設定
- ねらいを明確にしたICT活用場の設定
- 子どもの伸びを喜ぶ・子どもが学ぶ授業
- 自分の思いを表現できる板書計画・ノート指導
- 「振り返り」の時間の設定

- 系統的なICT活用スキルの育成
- ICT活用スキルを育成するためのチャレンジタイムの設定
- 「ICT活用のきまり」を活用したルール整備
- ICTを活用した家庭学習
- 利用状況等を把握するためのアンケート調査の実施

- 新たな時代の学習規律
- ノートのまとめ方、話型など表現方法の検討
- 家庭学習の内容について
- 「家庭学習のしおり」を活用した家庭との連携

支持的・協働的な学級風土の育成するための実践

- 系統的な黙想指導
- 「大塔小 良い子の一日」や「勉強もりもり大作戦」に基づく指導
- 「学び合い7」や話型表を活用した学習規律及び表現力の育成

3 主題について

(1) 「自分の思いをもって 表現できる」力とは

- 見方・考え方を働かせながら、主体的に課題解決を図る力
- 意図を持って学習方法や表現方法を選択し、決定する力
- 言葉や図、写真、式など、必要な情報を示しながら表現する力

(2) 「ICTの活用」とは

- ICTは、主に次のような目的で活用できる。
 - ①検索 ②思考 ③表現 ④共有・コミュニケーション ⑤習熟
 - ・ 学習に対する意欲向上 ・ 情報の共有や整理 ・ 思考の整理や可視化
 - ・ 学習における試行錯誤 ・ 学習のふり返り ・ 学習内容の定着 など
- ICTのよさは「即時性」「可視化」「共有化」⇒ 教師が意図をもって活用
- アナログでも行えること⇒ICTを活用して可視化し、より創造的に

(3) 「主体的・協働的な学び」とは

- 児童一人一人の高い当事者意識 ⇒ 自ら進んで学びに向かう力
- 多様な他者と協働し、課題解決を図る力
- 学習及び生活の約束やきまりを進んで守ろうとする支持的・協働的な学級風土

4 研究仮説

ICTの活用を推進することで、児童に次のような力を育成することができるであろう。

- ① 自分の思いをもって学習活動に取り組み、主体的に課題解決を図る力
- ② 協働的に学習に取り組み、学びを広げたり、深めたりする力(主に、学び合いの場面等)
- ③ 自ら方法を選択し、調整をしながら、学習の成果を確実に身に付ける力

5 研究の内容(具体的な手立て)

(1) 自分の思いをもって、主体的に課題解決を図るための指導 【研究仮説①との関連】

- 児童が食らいつくような「めあて」と「まとめ」の設定
 - ・ 生活経験に基づく課題の設定 ・ 具体物の提示 ・ デジタル教材等の活用
 - ・ 既習事項との関連付け など
- 系統的なICT活用スキルの育成
 - ・ ICT活用スキルに関する系統表の作成と活用
- チャレンジタイムの設定・系統的な活用(毎週木曜日13:40~13:55)
 - ・ ICT活用スキルを育成するための取組(タイピング練習や各種コンテンツの操作等)
 - ・ 「ICT活用のきまり」を活用したルールチェック
 - ・ 情報リテラシー・情報モラルの確認
 - ・ ICTの利用に対する意識調査を目的とした児童アンケートの実施

(2) 協働的に学習に取り組み、学びを広げたり、深めたりするための指導 【研究仮説②との関連】

- 教師の意図・ねらいを明確にしたICT活用の場の設定
⇒ タイミングや目的、グルーピング等について記号化した上で、指導案上に明記する。
- 支持的・協働的な学級風土を育成するための実践
 - ・ 系統的な黙想指導(2分前着席・1分前黙想)
 - ・ 「大塔小 良い子の一日」や「勉強もりもり大作戦」に基づく指導
 - ・ 「学び合い7」や話型表を活用した学習規律及び表現力の育成

(3) 自ら方法を選択し、調整をしながら、学習の成果を確実に身に付けるための指導

【研究仮説③との関連】

- 本時の学びを整理し、習熟を深めるための学習方法を自ら選択し、自己調整しながら学習の成果を確実に身に付けることのできる時間・場の設定
- 本時の学びを整理したり、生活と関連付けたりすることで、次時の学習へつなげていくための「振り返り」の時間の設定
- 家庭学習におけるICTの積極的な活用
 - ・ e ライブラリやデジタル教科書等を活用した家庭学習の推進
 - ・ 端末の持ち帰りと自宅での適切な管理
 - ・ 「家庭学習のしおり」を活用した家庭との連携
 - ・ 利用状況や保護者の意識を把握するためのアンケート調査の実施

6 研究の方法

- (1) 低・中・高学年で全体授業及び部会授業を行い、それに伴った考察をまとめる。
 - 各学年での先行授業や検証授業を含め、全員が必ず授業実践を行う。
 - 全体授業は、全教職員が参観する。部会授業については、1つは必ず参観する。
 - 全体授業と部会授業は、指導案を配付する。(先行授業等では、配付しなくてもよい。)
 - 部員でなくとも、授業や指導案検討には、自由参加とする。
- (2) 特別支援部会及び専科部会は、指導案を作成し、部会授業を行う。
- (3) 校内研修の時間は、全体協議及び各専門部での取組、指導案検討、研究協議会の時間に充てる。
- (4) 全体授業の前には、指導案について授業者の意図を説明する時間を取るようにする。
- (5) 研究協議会の司会・記録は、各部会内で分担する。(記録はデータ作成)

業務の効率化と参観者の視点から、指導案形式を再考し、記す内容を厳選していきたい。適宜様式の変更を可能とする。

7 研究組織

研究推進委員会
<ul style="list-style-type: none">○ 校長、教頭、主幹教諭、教務主任、研究主任、各専門部長、学年主任が所属する。○ 研究に関わる企画の立案及び検討などを行う。
学年部
<ul style="list-style-type: none">○ 仮説検証授業の計画や準備、実践などを行う。 <p>※各学年部員が、「授業研究部」、「ICTスキル向上部」、「学習環境整備部」の3つのいずれかの部に入り、活動する。</p>
専門部
<ul style="list-style-type: none">○ 授業研究部 ⇒ 授業改善に関わる研究及び指導案形式の検討などを行う。○ ICTスキル向上部 ⇒ 系統的なICTスキルの育成、チャレンジタイムやICTを活用した家庭学習の内容の検討などを行う。○ 学習環境整備部 ⇒ 新たな時代の学習規律や表現方法、家庭学習の内容の検討などを行う。